

## 公共事業再評価調書

所管課：海岸防災課

|  |  |               |   |  |  |  |
|--|--|---------------|---|--|--|--|
| 1 事業概要<br><br>(整備目的)   | 事業名：水金海岸高潮対策事業   |               |   |  |  |  |
|  | 事業種別：高潮対策事業  | 事業主体：沖縄県      | 当初事業期間：R3～R6  |  |  |  |
|  | 事業箇所：嘉手納町  | 根拠法令：海岸法      | 事業期間：R3～R11   |  |  |  |
|  | 総事業費(百万円)：760  | 費用内訳：補助率 9/10 | 事業量：L=1075m   |  |  |  |
| 本海岸は、沖縄本島中部の嘉手納町に位置しており、台風等の高潮等に伴う越波の影響により、護岸背後地で浸水被害が発生している。本事業は、沖縄県における計画波浪(50年確率波)及び既往最高潮位等を考慮した計画高潮位等から護岸背後地を防護し、高潮等による浸水被害を軽減させることで、住民等の生命・財産を守ることを目的としている。 |  |               |   |  |  |  |
| 2 再評価<br>該当項目  | <input type="checkbox"/> ① 事業採択後10年間を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業採択後5年間を経過して未着工<br><input type="checkbox"/> ③ 再評価後一定期間(　年)を経過 <input type="checkbox"/> ④ 事業の中止<br><b>■⑤ その他（事業費及び事業期間の見直し）</b>   |               |   |  |  |  |
| 3 再評価に至った主な要因<br>(具体的理由)   | <input type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保<br><input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題<br><input type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <b>■⑨ その他（再評価の実施の必要が生じた事業）</b><br>(事業費増について)<br>・労務単価、資材単価等の上昇により、事業費の増が生じた。<br>(事業期間の見直しについて)<br>・これまでの予算経緯や施工実績を踏まえ、事業期間を見直した。 |               |   |  |  |  |
| 4 事業の進捗状況<br>(R5.3末時点)   | 項目   | 事業費(億円)       | 整備(m)   |  |  |  |
|  | 計画   | 7.60          | 1075.0  |  |  |  |
|  | 実施済  | 1.76          | 275.7   |  |  |  |
|  | 率  | 23%           | 26%   |  |  |  |
| 5 事業効果の評価指標<br><br>(検討年50年)<br>(基準年R7年)<br>(単位:億円)   | ① 一般資産被害額 507.47<br>② 公共土木施設等被害額 913.45<br>③ 公益事業等被害額 15.22<br><br>総便益(浸水防護便益) 1,436.1<br>基準年換算(B) 527.4<br><br>費用便益比 (B/C) = 527.4 / 7 = 75.38  |               | ① 事業費 6.9<br>② 維持管理費 0.8<br><br>総費用 7.7<br>基準年換算(C) 7.0 |  |  |  |
| 6 事業を巡る状況の変化   | ① 社会・経済 : 平成30年3月に津波災害警戒区域に指定された。<br>-令和6年6月に嘉手納町において「嘉手納町都市計画マスタープラン」が策定され、海岸背後の町道について、主要な生活道路として位置づけられている。<br><br>② 地元・自治体 : 平成30年10月に、嘉手納町長より県に対し護岸堤防の復旧の要請書が提出されている。<br>-令和元年5月に、嘉手納町長より県に対し災害復旧及び護岸改良工事の早期実施の要請書が提出されている。<br><br>③ 利害関係者 : 特になし。  |               |   |  |  |  |
| 7 事業の必要性・効率性   | ① 事業の必要性・緊急性・有効性など：<br>過去の台風により発生した高潮等に伴う越波の影響で、浸水被害が確認されており、早期の高潮対策が必要である。<br><br>② 事業の効率性(代替案等の可能性やコスト縮減)：<br>一部、施工が完了していることや費用便益比が75.38であり、事業の投資効果が見込まれることから、継続して現事業を推進することが効率的である。<br><br>③ 事業効果の発現状況：<br>一部施工済み区間においては、事業効果が期待できる。  |               |   |  |  |  |
| 8 今後の対応・見通し  | ① 事業計画等 : 現計画で事業を推進し、令和11年度の完成を目指す。<br><br>② 対住民関係 : 地元から早期の整備要請があることから、引き続き、予算確保等に努め、早期の事業完了を目指す。<br><br>③ 執行体制等 : 現在の組織体制で執行可能である。   |               |   |  |  |  |
| 9 対応方針   | <b>■① 事業継続(現計画)</b> <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止  |               |   |  |  |  |